

A large, empty rectangular box with a thin black border, intended for a drawing or illustration.

治療

ステロイド外用や narrow band UVB 療法が主。菌状息肉症や悪性リンパ腫に移行しうる大局面型類乾癬では、定期的に経過を観察する。

1) 局面状類乾癬 parapsoriasis en plaque

壮年から老年男性に好発する。体幹や四肢に比較的境界明瞭な淡い紅斑を認め、わずかに鱗屑をつける(図 15.29)。「局面状」という病名であるが浸潤は触れない。痒痒などの自覚症状はない。皮疹の直径が 5 cm より大きいかな否かで大局面型 (large plaque parapsoriasis) と小局面型 (small plaque parapsoriasis) に分類する。

大局面型は軽度の萎縮を伴い、経過中に 10～30%の割合で菌状息肉症へ移行しうる(図 22.38 参照)。小局面型は左右対称に多発することが多く、枇糠様落屑を伴う。皮膚割線に一致して細長い病変を形成することもある (digitate dermatosis)。

2) 苔癬状枇糠疹 pityriasis lichenoides

若年者に好発し、体幹や大腿部、上腕を中心に生じる。顔面や掌蹠にはみられない。直径数 mm～1 cm 程度までの小型の角化性丘疹が次々に発生し、新旧の皮疹が混在するのが特徴的である。治療後に色素沈着や色素脱失、瘢痕を残す。経過から以下の 2 型に区別されるが、混在例や移行例も多い。いずれも年余にわたり増悪と軽快を繰り返す。

①慢性苔癬状枇糠疹 (pityriasis lichenoides chronica ; PLC)

直径 1 cm 程度までの紅斑や小丘疹が生じ、白色の鱗屑を付着する(図 15.30)。自覚症状は通常ない。個疹は数か月で軽快する。以前は滴状類乾癬と呼ばれていた。

②急性痘瘡状苔癬状枇糠疹 (pityriasis lichenoides et varioliformis acuta ; PLEVA)

発熱や倦怠感とともに、^か痂皮や^ひ潰瘍を伴う丘疹が多発する(図 15.31, 15.32)。個疹は数週間て^{ムツカ}癒痕を残して治療する。以前は Mucha-Habermann 病とも呼ばれていた。

4. 扁平苔癬 lichen planus ; LP**Essence**

- 扁平に隆起した灰青色～紫紅色の局面が手背、四肢や口腔粘膜に好発する。慢性に経過。

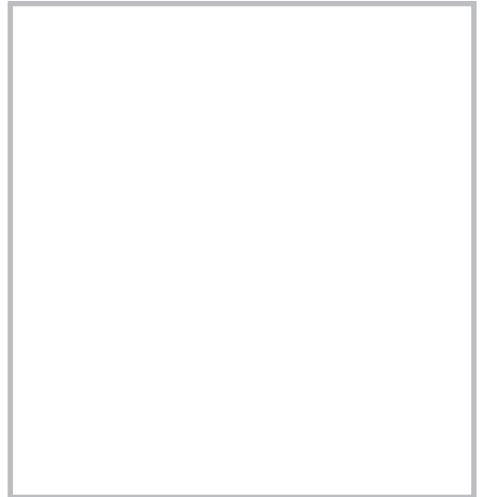


図 15.30 慢性苔癬状枇糠疹 (pityriasis lichenoides chronica)
新旧の皮疹の混在は比較的少なく、潰瘍を伴うことはない。



図 15.31① 急性痘瘡状苔癬状枇糠疹 (pityriasis lichenoides et varioliformis acuta ; PLEVA)
急性炎症症状が強く、新旧の皮疹が混在し、びらん・潰瘍形成も伴う。